

デジタルハリウッド大学 アドバイザリーボード会議

2020 年度

2020 年 11 月 17 日 (火) 13:00-14:30

[会場] デジタルハリウッド大学 駿河台キャンパス 会議室

[出席者] 杉山知之(学長)・稲見昌彦・鮫島正洋(特任教授)・谷川じゅんじ・藤村哲也(特任教授)・池谷和浩(事務局長)・大学事業部長)

[陪席] 檜木野綾子(大学事務局)、沖昇(産学官連携センター)

[議事]

1. アドバイザリーボード組成の背景について
2. ボードメンバー紹介
3. デジタルハリウッド大学(学部・専門職大学院)の現況報告
4. ボードメンバー近況共有
(コロナ禍が本格化してから、各ご専門の領域やご自身の取り組みに起きた変化)
5. 協議事項
 - ・教育課程の編制・実施について
 - ・教員の資質向上について
 - ・デジタルハリウッド大学の展望について

1. アドバイザリーボード組成の背景について

※別紙 1 議事進行.ppt

事務局より、アドバイザリーボード組成の背景についての説明を行った。

- ・社会的背景
- ・組成の要件
- ・本学における位置づけ
- ・本会議の目的

2. ボードメンバー紹介

各ボードメンバーより自己紹介を行った。

- ・ 稲見昌彦(東京大学 教授)様 テクノロジー領域、アカデミアの視点
- ・ 鮫島正洋(内田・鮫島法律事務所、DHGS 特任教授)様 リーガル領域、知財戦略・学発ベンチャーの視点

- ・ 藤村哲也(株式会社フィロソフィア代表、DHU 特任教授)様 ビジネス領域、人材育成の視点
- ・ 谷川じゅんじ(JTQ 株式会社代表)様 クリエイティブ領域、外部有識者の視点

3. デジタルハリウッド大学(学部・専門職大学院)の現況報告

コロナ禍における努力・工夫を中心として、学生募集、新入生受け入れ、授業運営、就職支援などの取り組みについて事務局より報告を行った。

4. ボードメンバー近況共有

各ボードメンバーより、コロナ禍が本格化してからの専門領域における取り組みや変化について共有を行った。

5. 協議事項

下記の視点についてメンバー間でディスカッションを行い、杉山学長への意見を述べた。

1. 教育課程の編制・実施について
2. 教員の資質向上について
3. デジタルハリウッド大学の展望について

上記 5. においては、主に以下のような意見があった。

・伝統的な大学では、未来は予測できないので普遍的な知識を教えていこうと考えて編成している。一方で、実務系は、まさに今の社会で必要な人を育ててくるという視点で、未来をこうしたい、こういう未来で生きていきたいという意思と今とをつなげるバックキャスト型のカリキュラムが有効であり、大学が変わっていくべきポイントであると考える。

・次世代の人材の価値観として、SBNRにも注目し、彼らの価値観を理解して未来を考えることが重要である。例えば地域に赴いて、その地域の中で、文化、芸能をサポートするようなボランティアをするなど、社会活動とクリエイションが連携していくような実践的なクリエイティブワークを促進して、学生が持っているスキルを地方で生かせるようにすると良いのではないか。

・組織人として上の言うことを遵守して安定して生きていくという人材と、スタートアップ人材に大きく分かれている。後者は、自分の好きなことを発信して、好きなように生きていくというアントレプレナーそのものであり、自分たちのやっていることを表現する能力がないと世の中にも伝わらず、成果になりにくい。こういったところがデジタルハリウッド大

学の本質的な社会とつながる意義なのだと考える。

・これだけ世の中の価値観が変わって、従来のビジネスモデルが通用しなくなった中で、今までのマネタイズを考え方を業界のリーダー達がシフトチェンジしていく必要がある。そういうことを国内のどの業界でもサポートしてくれるプロデューサー的な人材が不足している。

以上